
ONE PIECEの世界に転生

鷹の爪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECEの世界に転生

【Nコード】

N1436Z

【作者名】

鷹の爪

【あらすじ】

主人公の翼は、みはつ

ある日、自分の書こうとしていた二次小説の主人公に転生する。

原作に大幅な介入はしません。

作者は初心者なので過度な期待をしないで下さい。

転生？

「あーあ 今日も疲れたなあー。」

ガチャッ

「ただいま。」

「お帰り。」

台所から母さんの声がする。

俺の名前は翼つばさ 高校3年生だ。
俺はこの物語の主人公なんだ。

「とか現実逃避してる場合じゃねえんだよなあ、
受験勉強しなきゃいけないんだった。」

「ふうー 一段落ついたし休憩すっかな」

俺はベッドに散らばった漫画『ワンピースONE PIECE』を適当に手に取り読み出した。

「やっぱりロブ・ルッチつええな。」

「ホントおもしれえよな。」

いいよなあ行ってみてえよワンピースの世界。

「ゲッポウ月歩」とか「トリトリの実」の能力使ってノリノリで空とか飛び

てえなあ。

突然だが俺は今、二次ファンでワンピースの小説を書こうとしている。

あらすじはこんな感じ。

物語の主人公、ウインは「トリトリの実」モデル“鷹^{ホーク}？を食った鳥人間。

ウインはサイファーポール^{サンバーナイン} No.9に入っていたが、ある時脱け出しお尋ね者になる。

そして海賊になるという話。

「六式^{ろくしき}」が使えて「トリトリの実」を食っているという。

見ての通り俺の夢を詰め込んだ感じの話だ。

あらすじ的なものは思いついたけど、

それから先が思いつかないんだよなあ。

この後どうすっかな・・・・・・・・・・

「寝るか。」

そして俺はベッドに寝っころがり眠りについた。

夢の中

抽選会場のようだ。

ガラ　ガラ　ガラ　ポロ

「おめでとう御座います。」

抽選結果は翼さんに決まりました。

貴方は常識的に考えたら普通は叶わない様な夢を一つ叶える権利を得ました。

どうぞ有効にお使い下さい。」

俺は気付いた時にはこう答えていた。

「じゃあ、ウインになってみたい。」

「かしこまりました。」

乗った船は・・・

目が覚めると俺は知らない場所にいた。

少し揺れているから地震かと思っただら船の上のようだ。
それともう一つ俺の体はボロボロだった。

ガタン！！

後ろから人影。

「ん！？」

どすっ！！

「うっ！！」

しまった首に手刀を入れら

・・・ばたッ

「・・・」

その男は無言でワインを運んで行った。

数年後

え？早い？んなこと言ったら漫画だってそうだろうよ。

まア何があつたかは、お楽しみで。

俺は今、^{グランドライン}偉大なる航路航海？を航海している。と言つか迷子だ。

因みにもうどこまで行ってるのか知らないが原作は開始している。

まアだからこうやって海に出たんだけでも。

あつ重要な事を忘れてた、俺は今女だ。

目が覚めたら女になってた。

でもそのおかげで追われずに済んでいる。

名前もワインから前世？の名前、ツバサに変えた。

「で、どうするかな？」

この状況。

「ん？なんだ！急に暗く」

ガゴンっ！！！！

「うわアデカイ船？潰される！！」

バキっ！！！！

「うわアー！！」

海賊船の上に、この船の船長と思われる男が1人。

「フェッ フェッ フェッ。」

ガゴンっ！！！！

「ん？」

バキっ！！！！

「何だ？」

「うわァー!!」

「人の悲鳴？おまえ見てこい。」

「ウオ!!まかせとけ!!」

ザバーン!!

そう答えた魚人の男は海に跳び込んだ。

「ん、此処は？」

「フェッ フェッ フェッ 目覚めたか？
此処はフォクシー海賊団の船の上だ。」

「あんた誰？」

「おれの名はフォクシー!!この船の船長だ。」

「俺はツバサ、助けてくれてありがとう。」

「礼はいらねエ、お前おれの仲間にならねエk」「いやだ。」

ずー・・・ん

「・・・・・・・・・・そんなに即答しなくても・・・・・・・・」

「オヤビーン！！海賊船だ！！」

「ホントか！？ フェツ フェツ フェツ。」

そうするとフォクシーは出ていった。

「まさかフォクシーにお世話になるとは・・・」

しばらくして

ドン ドォーン！！

「始まったか。」

ツバサは窓から様子を確認する。

“キバガエル海賊団？？”と言うことはこの後ルフィ達と戦うんじゃない・・・

「よっしゃー！！ラッキー！！！！」

ガチャ

「お前見にいかないのか？試合始まるぞ。」

「おお、見に行く！！」

がや がや わー

「ホントにお祭り騒ぎだな。」

「おい其処の兄ちゃん、焼きそば食わねえか？」

「食べる食べる！！幾ら？」

言っ
てな
かつ
たけ
ど服
装は
男物
でさ
らし
巻い
てい
る。

試合終了後

「フェツ フェツ フェツ、今回も楽勝だったな。」

「いゃん オヤビンかつこよかったですよ。」

「そうか？フェツ フェツ フェツ、ん？」

あ、気付かれた。

「よオ、考え直してくれt」全然。」

ずー…ん

「……………また即答……………」

「オヤビン！！コラお前つオヤビンは傷つきやすいんだ！！！」

フォクシーのことを宥めながら怒ってくるポルチエ。

「ぶ。ぶ。ぶ。つ！！ぶ。ぶ。ぶ。ぶ！！！」

口を押さえて笑うハンバーグ。

何時ものことなんだな。

ん！？

「あつあれ。」

ツバサの指指す先には・・・

「おお、海賊船じゃねエか。」

しかも麦わら海賊団の・・・

「フェッ フェッ フェッ、今日はゲーム三昧だな。」

デービーバックファイト 妻わらの一味

ドン ドォーン!!

「ゲームを」

ウオオオオオ!!

「受諾した~~~~ア!!」

あ、始まった。

「見に行くか。」

「さーて野郎共っ!! 騒いじやいやん!!」

わー わー

「敗戦における3か条?を今から宣誓するわよ!!」

長いので以下省略。

一回戦「ドーナツレース」

「レディ~~~~イ」

パアア・ン!!!

「ドーナツ!!!」

ドドドドドン

うわっ始まったよ、お邪魔攻撃。
相変わらずせこいな。

数十分後

「勝者!!!!キューティワゴン号!!!!」

「デイビーバックファイト一回戦を制したのは!!!!
我らがアイドルポルチェちゃ~~~~ん!!!!」

やっぱノロノロビームせこいな、
なんか結果分かってても応援しちゃうね。

いやアゾロかつこいい。

「男なら.....!!!!」

フンドシ絞めて、勝負を黙って見届ける!!!!」

だって男でも惚れちゃうね。て、いま俺女だった。

「ゲームを制したのはなんと・・・！！！！
麦わらのルフィ~~~~！！！！」

三回戦終了したな？
さて原作介入だア！！！！

「ルールだ、さア早エトコ選べ！！！！
誰が欲しいんだ！！！！」

「海賊旗をくれ！！！！」

「待つて！！！！」

「ん？お前誰だ？」

「俺はツバサ、連れてってくれないか！！！！」

「いいぞ。」

「うおアッサリOKするのかよ！！！！」
確かにウソップ正しい。

「何か気に入った。」

「えーっ!!お前、おれの所には入らねエのk「うん。」

ずー…ん

「……………また即答……………」

「ぷぷぷ。」

「勝者!!“麦わらの一味?!!!!”

デービーバックファイトこれにて閉会~~~~~!!!!!!」

わああああああ!!

デービーバックファイト 麦わらの一味（後書き）

こんな入り方です。
すいません。

青キジ登場

「ーやっぱお前ら・・・
今死んどくか。」ドン！！

「！！！！？」

俺たちは今海軍本部“大将？青キジと向き合っている。

そうだった、もうエニエスロビー編じゃん。

ブチブチ！！

青キジは近くの草を抜くと、

ガキィ・・・ン！！！！

「“アイスサーベル？”

能力で氷の剣に変えた。

「命取る気はなかったが・・・」

「・・・！！！！」

青キジはロビンを切りつけようとするが、
それをゾロが受け止めた。

ギィィ・・・ン！！！！

「！！！！」

ばっ！！「^{スライス}切肉？」

其処へサンジが、

「シュート？」

蹴りを加えサーベルを手から放させた。
そしてルフィが突っ込んで来る。

「ゴムゴムの？オ」

その時サンジとゾロが掴まれ、

！！？「ウ！！！！」 「ん！！！！」

「^{ブレット}銃弾？オ！！！！！！」

「冷た！！」

パキ パキ パキ・・・腕や足を凍らされてしまった。

「うわ！！」

「ぐあア！！！！」

「おおあああつ！！！！」

これが海軍本部“大将？の力か・・・
やっぱり生で見るとスゲーな。

がばっ！！！！

「ロビン！！！！危ねエぞ逃げろ！！！！」

パキパキ・

「ロビンちゃん!!!!!!」

パキン!!

「・・・・・・・・!!!!!!」

「うわあああロビン!!!!!!」

ドンッ! 其処には凍らされたロビンが・・・

「お前エゝっ!!!!!!」

「わめくな・・・ちゃんと解凍すりやまだ生きてる。
ただし・・・体は割れ易くなってるんで気をつけろ、割れりや死ぬ。」

「例えばこういう風に砕いちまうと・・・」すう・・・
そう言いながら青キジは拳をふりかざす。

「ウウ!!!!!! やめろ!!!!!!」

「ロビン!!!!!!」

ブンッ!!!! スカッ

「・・・・・・・・!!!!!!」

「ハア・・・あ・・・危ねエ!!!!」

間一髪でルフィがロビンを抱いて避けた。

ザッ・・・「!!!!!!」

安心していられるのもつかの間、青キジの足が迫る。

ばっ！！ぐしゃ！！！！

「ぐへ！！！！！」

どどど「ギャーギャー！！！」どどどど

間一髪で今度はウソップが抱き抱えて逃げ、代わりにルフィが踏まれた。

「・・・・！！！」

「ウソップ！！！！チョッパー！！！！

そのまま船に走れ！！！！

手当てしてロビンを助ける！！！！」

「わ！！わかった」

「行くぞ！！」

「待つて！！」

「何だよ今急いでるん　　！！？」

「俺に乗れ！！」

其処には鷹がいた。

「お前、能力者だったのか！？」

「そんな事はどうでもいい、早く乗れ！！」

「お！！おうつ！！！！」

「お陰さまで……………」

「だいぶいいわ……………」
「ありがとう船医さん」

「そんな……………」
「嬉しくねーぞコノヤロー」

「嬉しそうだな。」

「そっぴやアロビン、ツバサが此処まで運んでくれたんだぜ。」

「そうだったの、ありがとうツバサさん。」

「そうだったのかア!!」

「そっぴやアルフィ、コイツ能力者だったんだぜ!!」

「トリトリの実の?鳥人間!!」

「そうだったのか!!すんげエ!!!!」

「まあね。」

「ロビンちゃん、何か……………」
「体のあつたまるもん作ろうか!!」
「食欲はあるか?」

「……………」
「じゃあ

「コーヒーを頂ける?」

「喜んで」

「ツバサちゃんもなんか食べるか?」

流石だな、サンジ俺のこと女だって気付いてるよ。

「別にいいよ。」

「ん？珍しいな、お前がナミとロビン以外にサービスするの。」

「うるせエマリモ、レディにはサービスするのが礼儀だ。」

「「「え？ええええええ！？」」「」」

「「「女だったのか！！！！」」「」」

「うん。」

「みんな気がつかなかったのか？」

「「「全然」」「」」

「チョッパーも気付いてたの？」

「うんにおいで。」

バシャ バシャ バシャ

「………んん？？」

「何だありや……」

ゾロが何か見付けたみたいだ。

「ん？」

「カエルだ！！巨大カエルだ・・・！！！」

青キジ登場（後書き）

丸写しみたいになってしまった。
介入するの難しい。
しばらくこんなが続くかも。

キャラクター紹介（前書き）

1日で3000PV驚きです

キャラクター紹介

翼 つばさ

身長 169 cm

この物語の主人公。

自分の書こうとしていた小説の世界の主人公になってしまった。
原作知識はエニエスロビーまで。

ウィン（男）

身長 186 cm

ツバサ（女）

身長 172 cm

主人公の書こうとしていた小説の主人公。

元CP9の「六式」ろくしき 使いで、

「トリトリの実」モデル“鷹”ホークを食べた鳥人間。

CP9から脱け出し逃走していた。

命からがら逃げて乗った船で気を失ってしまった。

目が覚め起きて見ると自分は女になっていた。

それを逆手にとり名前をウィンからツバサに変え生活する。

“水の都？ウォーターセブン

「カエルだ！！！！巨大カエルだ……！！！！」

「クロールで海を渡ってるぞ！！！！」

「あんなに急いでどこ行くんだ！！？」

「追うぞ野郎共！！！！」

カエルが向かって行ったのは、

「ん？あれは……灯台……！！？」

シフト駅
ステーション

建物から女の子が出て来た。

「あ！！」

大変だ！！ばーちゃんばーちゃん海賊だよ！！！！」

今度はおばあさんとウサギ？が出て来た。

「何！！！？本当かチムニー！！！！」

よーひちよつと待ってりゃ。」

おばあさんは電伝虫を持って来た。

「あー……！！もひもひ！！？」

えゝゝと！！……！！何らっけ！？

忘れまひた！！！！ウィゝゝッ！！！！」

「酔っぱらいかよっ!!!」

酔っぱらいのおばあさんココロさんの話によると此処は海列車の
フット駅で、ステーション

ココロさんはこの駅長をしてるらしい。

この先にあるウォーターセブンには世界最高の船大工達がいるらしい。

「・・・よし決めた!!!」

そこ行つて必ず“船大工?”を仲間にするぞ!!!」どん!!

「ほいじゃあコレな!!!」

簡単な島の地図と“紹介状?”

「じゃ行くわ!

色々教えてくれてありがとうココロさん、チムニー!!!」

ルフィ達は、新たな仲間を引き込むべく、

“水の都?ウォーターセブンを目指す。

「おいアレじゃねエのか?」

「島だっつ!!!島が見えたぞっ!!!」

「うおー!!」

「素敵。」

「うおおっ!!!!」

どーん!!

「何だこりゃー!!!!でっっけっ噴水だ!!!!」
はーっ!!

「うはー!!こりゃすげー。
まさに産業都市!!」

「港はどこかしら……。」

「あ、俺知ってるよ。」

「ツバサ知ってるの!？」

「『『『なら早く言えよ!!!!』』』」

「悪い悪い。」

「あ、俺ら海賊だから裏町の岬のほうがいいかも。」

「ありがとう助かったわ。」

「ツバサは此処に来た事があるの？」

「うん、てか住んだ。」

「へえー。」

あ、言い忘れてたけど、この体の記憶はあるよ。
それと翼^{おれ}自身の持つてる原作知識はエニエスロビー編までしかない。
その後はあまり知らない。

「よし！！ほんじゃ行つてきます！！」
ぴう！！

「待つてルファイ！！ウソツプ！！
あんた達私についてきてよっ！！」

「どこに？」

「ーまずはココロさんの紹介状を持って“アイスバーグ？”という人
を探すの、
ツバサも来てくれる？」

「ん？いいよ。」

「よし！！じゃあまアとにかく！！行こう“水の都？！！！”どー
ん！！」

「……んん？ここだけ？町への入り口。」

「“貸しブル屋？？何だ？”

じーっ!!

急に俺の方を見てくる3人。

「えっ!?俺!?

あつ“貸しブル屋?っていうのは、ブルを貸してくれるところで、ブルって言うのは海の馬みたいなもんで、

ここは水路が多いから住人にとっちゃかせない乗り物なんだ。」

「「へえー。」「」

「じゃあ俺達も借りようぜ!」

「そうね。」

「すいませーん、ブル貸してください!」

「いらっしゃいブルだね?何人だい?」

「4人!!」

「4人なら“ヤガラ?2匹でいいね。」

「荷物乗つけるから3匹のほうがいいんじゃないか?」

「ん?いいよ俺飛ぶから。」

「そっかじゃ2匹で。」

ザザアーツ!!!

「うおう!!!よし行けヤガラ!!!」

「ニーツ!!!」

今俺達は黄金を換金して造船所に着た。

「はつきり言うがお前達の船は、
わしらの腕でももう直せん……!!!」

「メリー号が直せねエって!!!?何でだ!!!」

ん!!!あれ?ウソップがない、フランキー一家かな?

ん？話が一段落着いたようだ。

「ん？」

ルフィが何か気付いたようだ。

「何？」

「軽い・・・」

そっいつてトランクを持ち上げる

「？ どうして？」

冗談やめてよ！！大金が入ってて軽い訳が・・・」

「「ギャ~~~~ツ!!!!」」

「2億B^{ペリー}ないっ!!!!」

「ウソツプもないよ!!!!」

フランキー一家の仕業なんじゃ!!!!」

「ルフィ急いで探すのよ!!」

「おう!!!!」

ダー~~~~ツ!!

「ねエ!!フランキー一家ってアジトはどこ!!!!?」

ナミはパウリーに聞いた。

「お前らが船停めてるっていう、

“岩場の岬？からずっと北東へ行った海岸にある「フランキーハウ

ス」だ。」

「ありがとう！……行こうナミ！」

ざわざわ

「！ 人集り……」

「あれウソップじゃない！？」

「え……
ウソップ……！」

人集りの中に倒れていたのはウソップだった。

「ウソップ……！やったのはフランキー一家なの！？
あいつら……！？」

「そうだ……俺が弱エもんで……！！！」

「俺、皆に知らせてくる。」

「お願い……！」

バサッ

ツバサは鷹になり飛び立った。

ゴイング・メリー
G・M号

「みんなー!!」

ゴイング・メリー
G・M号にむかってツバサが走って来る。

「あれれ!? ツバサが帰って来たぞ!!」

「ツバサちゃん何かあったのか?!?!?」

「みんな!! 大変なんだ!!
ウソップが!!」

水路

ツバサ達はウソップが倒れていた場所にきた。

「あれっ？ウソップがいない！！」

「場所が違エんじゃねエか？」

「うるせエよマリモ！！」

「いやここのはず！！」

「見て血だ。」

チヨッパーが血の跡を発見した。

「勝手に移動したのかも。」

ああああああ「？」

空から何か降ってくる。

「ああああああああ」ガン！！
ポチャン！！

「ルフィ！！？」

「何やってんだてめエ！！」

「あ！！そうだお前ら大変なんだウソップが。」

「知ってるよ！！！！来い！！」

今そのアジトへ向かう所だ。」

「早く行こう!」

“水の都？ウォーターセブン（後書き）”

感想待ってます

フランキー登場

フランキーハウス前

「ちょっと待ってるよ、ウソップ」

パキパキ!!

「あのフザけた家吹き飛ばして来るからよ……!!」ドン
今俺達は、また返り討ちにされてしまったウソップの仇を取りに来
た。

「パーティーテーブルキックコース?!?!」

ドガガガ!!

「ギャー!!」

わああああああ

「やべエ!!!」

ちよっとコイツらまじでヤベエぞ!!!」

「放て砲弾！！！！！」

「……“紙^{カミ}絵^エ？（ボソ）」ヒラリ

すう……ドガン！！！！

「何だ！？当たんねエぞ！！？」

「“残像斬り？！！！”

指銃^{シガン}を使うとややこしいからやめておく。

「消えた！！？ぐああ！！！」

わあああああ

俺らの攻撃によりフランキー一家はどんどん蹴散らされていく。

パキ……パキ……

「お前ら骨も残らねエと思え。」ドドンッ！！

あの後、ウソップは目を覚ましたけど、
原作通りメリーのことで決闘して一味から抜けた。

裏町の宿屋 屋上

「アイスのおっさんが・・・・・・・・!!?」
ルフィが聞くと

「ええ撃たれて今意識不明だって・・・・・・・・!!」
ナミがそう答えた。

そうかも暗殺未遂の事件かあ

「ちょっと行ってみる」

そういうとルフィは乗っていた建物の屋根から飛び降りた。

「待つてルフィ、私も行くから。」

「俺も行くよ。」

1番ドック

「・・・・・・・・すごい人望・・・・・・・・
近づけそうにないわね。」

ズン ♪ ズン ♪ ズズズ
ン ♪

「?」

急に音楽が流れ始めた。

「出たー！ー！！」

「この島から出ていけー！！」

「しばり首だー！ー！！」

すごいブーイングの嵐の中、建物の屋根の上に現れたのは、アロハシャツに海水パンツ一丁の変態。

「そうだ、おれは人呼んでワアオ！ー！！」

「んーっ！ー！！フランキーっ！ー！！！！」ドドオーン！ー！！

「出て来い“ 麦わらア？！ー！！」

「．．．．．何だあの変態．．．」

「．．．．．！！」

フランキーって．．．言わなかった！ー！！？」

「．．．．．！！？」

あいつが．．．．．！！！！」

「おい！ー！！」「ルフィ！ー！！」

ルフィがフランキーに向かって叫ぶ。

「？」

「海水パンツ！！！」

「あー！！？」ギロ・・・

ザワ・・・

「おれがルフィだ。」ドン！！！！

「お前かア・・・」麦わらのルフィ？つてのア。
人の留守中に、えらく大暴れしてくれたじゃないの、お兄ちゃん・・・！！！！」ゴオオオオオオ

「ナミ、ルフィが喧嘩始めると思うからここから離れよう。」

「そうね。」

ツバサはナミを乗せてその場を離れた。

「“ストロング^{ライト}右？！！！！”
ボウン！！！！」

「！！！！？」

フランキーのパンチが、
肘から下のちょうど真ん中らへんから外れ、
鎖が伸びて飛んだ。

ドゴン!!!

そのパンチは見事命中し、ルフィを吹き飛ばした。

「何!?!」

驚くナミ、それにしてもすごいな“サイボーグ改造人間?。

ジャララ・・・

伸びたフランキーの腕が戻っていく。ガシン・・・

ボコ・・・ どさっ!!

「「ルフィ!!」」

「何今の!!」

「腕が外れてた。」

「・・・・・・・・あア、知らなかったのかい・・・・・・・・お姉ちゃん達。」

右腕を左手で伸ばしながら話す。

「じゃあ教えとこうか・・・」

おれは“サイボーグ改造人間?だ!!!」ドン!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1436z/>

ONE PIECEの世界に転生

2011年12月7日08時49分発行